

門川町教育研究所

I	研究主題	14-1
II	主題設定の理由	14-1
III	研究目標	14-2
IV	研究仮説	14-2
V	研究構想	14-2
1	研究方法	14-2
2	研究計画	14-2
3	研究全体構想	14-3
VI	研究組織	14-3
VII	研究内容	14-4
1	理解・定着確認と個に応じた指導の研究 (プラン1)	14-4
(1)	基本的な考え方	14-4
(2)	研究の内容	14-4
(3)	研究の振り返り	14-6
2	ドリル学習の効果的な指導方法の研究 (プラン2)	14-7
(1)	基本的な考え方	14-7
(2)	研究の内容	14-7
(3)	研究の振り返り	14-8
3	活用する力の育成についての研究	14-8
(1)	基本的な考え方	14-8
(2)	活用する力について	14-9
(3)	授業での実践	14-9
(4)	研究の振り返り	14-9
VIII	成果と課題	14-10
○	参考文献	
○	研究同人	

I 研究主題

伸ばす学力、ひらく未来、かどがわ“学び”の深化
～ 学力向上^ツ2プランを生かした学習指導を通して ～

II 主題設定の理由

○ 今日の課題から

今日の社会は、急激に変動しており、若者にとって将来の見通しがもてない状況にある。景気の問題や雇用の多様化・流動化、深刻な少子高齢化問題など、ネガティブな情報が非常に多く、若者は将来に不安を感じ、前向きな生き方が難しくなっている。また、精神的・社会的な自立の遅れなど、若者を取り巻く多くの課題も指摘されている。このような状況の中、将来を担う子ども達に今最も求められていることは、このような社会の激しい変化に流されることなく、様々な課題にたくましく対応し、社会人として明るい展望をもって自立するために必要な「生きる力」を身につけることである。

○ 地域の課題から

このような社会情勢の中、門川町教育委員会は本年度最重点教育施策として、“生きる力をはぐくむ「確かな学力向上」の推進～基本的な生活習慣・学習習慣の確立～”をあげており、学校教育に課された課題は大きい。この目標実現のためには、学校や関係組織が一体となって教育に取り組む必要があり、何よりも小・中学校9年間の教育をとおして、知・徳・体の調和のとれた成長を図りながら、「生きる力」の基盤である「確かな学力向上」の推進に努める必要がある。

○ これまでの研究から

過去2年間「確かな学力向上」の研究に取り組んできた。21年度は、「かどがわ5段階授業プラン」や「ドリル学習実践の手引き」を作成し、情報発信を行った。昨年度は、その実践化の年として、「理解・定着の確認と習熟度に応じた指導の工夫」、「ドリル学習の効果的な指導の工夫」という「学力向上^ツ2プラン」を提唱し、それらを生かした研究授業や研究会での説明・協議をとおして、啓発・普及に取り組むことができた。これらの研究成果は、すべての学校に教育研修資料として提供するとともに、教育研究所便り「ふれあい」をとおして、日常生活と学習を関連づけた様々な教育情報を家庭や地域社会に発信することができた。この結果、6月と12月に行った実態調査では、各学校における小テストやドリル学習の活用・実施率の上昇、指導内容・指導方法の工夫などが見られたが、教育研究所が提唱する「小テストやドリル学習の共通実践や効果的な指導の工夫」という面では、さらに改善が必要であることがわかった。また、門川町の児童生徒の状況も、学習への意欲や進路への意識はあるが、基礎的・基本的な知識・理解や活用力が十分身につけているとは言えず、全体に伸び悩んでいる様子が見られる。

○ 本年度の研究について

そこで本年度は、「伸ばす学力、ひらく未来、かどがわ“学び”の深化」の研究主題のもと、昨年度までの研究や実践をさらに工夫・改善することをとおして、また、昨年度確立した学校と関係組織の一体化をさらに深め、「学力向上^ツ2プラン」を生かした効果的な指導方法の研究・実践・啓発に取り組むことにした。プラン1では授業での指導の工夫として、小テストなどでの効果的な定着確認と個に応じた指導の研究・実践に取り組む。プラン2では授業以外での指導の工夫として、ドリル学習の共通理解と児童生徒の自主的な取組を目指したドリル学習の効果的な指導方法の研究・実践に取り組み、その成果を学校や家庭に情報発信したい。さらに、プラン1とプラン2で習得した知識や技能を活用することで、基礎・基本の一層の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力などを育成するために、「活用する力を育てる」研究に取り組む、「確かな学力向上」の推進に努めたい。

このような、「学力向上^ツ2プラン」や「活用する力」を生かした学習指導の研究・実践をとおして、学校や関係組織が一体となって学び合い、知恵を出し合って、“生きる力をはぐくむための「確かな学力向上」の推進”に取り組めば、自らの未来をきりひらく「生きる力」の育成を図ることができるのではないかと考え、本主題を設定した。

Ⅲ 研究目標

子ども一人一人の豊かな未来をきりひろくために、その原動力である「確かな学力」を伸ばすことを目指して、学校や関係組織が一体となって「学力向上^ツ2プラン」や「活用する力」を生かした学習指導に取り組み、かどがわならでの“学び”の深化を図る。

Ⅳ 研究仮説

「学力向上^ツ2プラン」により基礎・基本の確実な定着を図り、習得した知識・技能を「活用する」学習指導に取り組めば、基礎・基本の一層の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力や学習意欲が育ち、「確かな学力向上」を図ることができるであろう。

Ⅴ 研究構想

1 研究方法

○ 教育研究

研究1 理解・定着確認と個に応じた指導の研究（プラン1） *授業での指導の研究

- ① 授業実践による検証
- ② 多様な理解・定着確認方法及び個に応じた指導の提言

研究2 ドリル学習の効果的な指導方法の研究（プラン2） *授業以外での指導の研究

- ① 実態調査の実施と検討
- ② 学校への効果的な指導方法の提言
- ③ 家庭への効果的な工夫の啓発

研究3 活用する力を育てる研究 *2プランと活用のサイクルを生かす研究

- ① 活用する力についての基礎的な研究
- ② 活用を取り入れた研究授業の実施

○ 情報発信

- ① 学習指導に役立つ情報発信
- ② 家庭教育に生きる情報発信

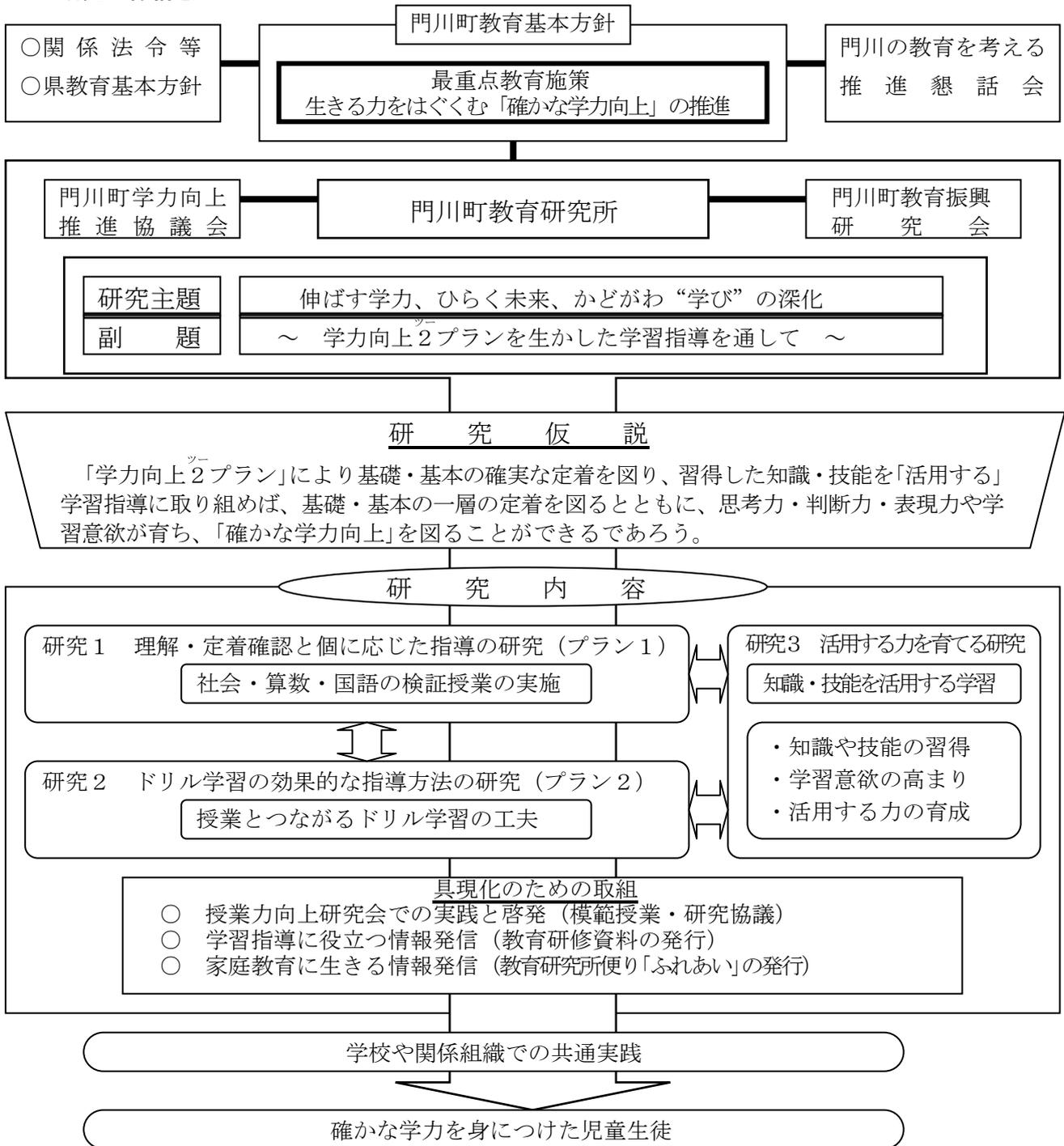
※ 教育研究所便り「ふれあい」、教育研修資料、ホームページ運営をとおして情報を発信する。

2 研究計画

分野	研究内容	平成22年度	平成23年度
研究1	定着確認と個に応じた指導の研究	①実態調査の実施と検討 ②授業実践による検証 ③指導モデルの研究・作成	①授業実践による検証 ②多様な方法の提言
研究2	ドリル学習の効果的な指導方法の研究	①実態調査の実施と検討 ②各学校の実践例の研究	①実態調査の実施と検討 ②学校への提言 ③家庭への啓発
研究3	活用する力を育てる研究		①活用力の基礎研究 ②活用力を育てる研究授業
情報発信	家庭や学校への情報提供	啓発・研修資料の発行	

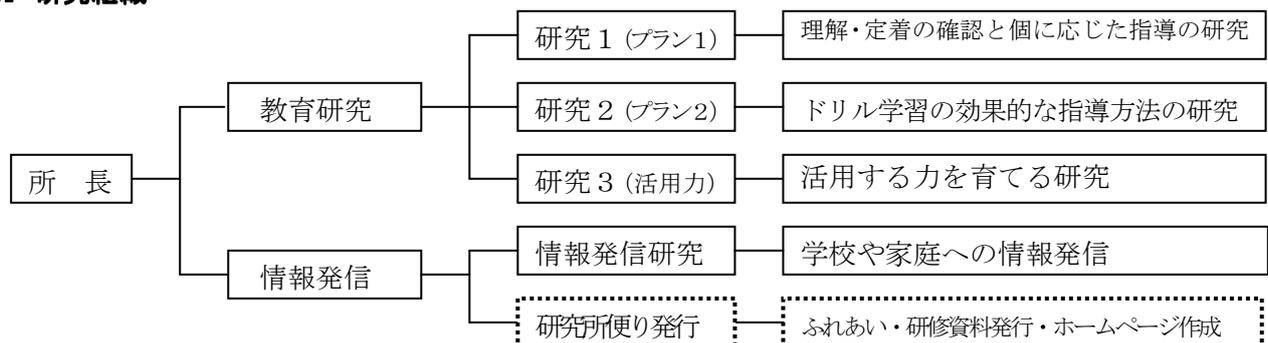
【資料1 研究計画表】

3 研究全体構想



【資料2 研究全体構想図】

VI 研究組織



【資料3 研究組織図】

Ⅶ 研究内容

1 理解・定着確認と個に応じた指導の研究(プラン1)

(1) 基本的な考え方

基礎・基本をしっかり身につけさせるためには、毎時間の理解・定着の状況をしっかり把握して、一人一人に応じた指導を確実に行う必要がある。(習得) 昨年度は、確認のための小テストの活用を図る研究に取り組んできたが、限られた1単位時間の中で、日常的に取り組むのは難しい実態も見られた。そこで、本年度は、授業のはじめと終末を中心に、より簡潔、的確に理解・定着状況を確認するための工夫と一人一人の学習実態に応じた指導の工夫という視点から研究に取り組んできた。

(2) 研究の内容

ア 中学校社会での授業実践

○ 授業の概要【3年 公民 人権と共生社会】

臓器移植の問題を様々な視点から多角的に考えることをとおして、「自己決定権」とはどのようなものかを考える授業を行った。「自己決定権について考えてみよう」という学習課題を立て、その課題を自分のこととして考えさせた。解決するための手立てとして「あなたは将来、脳死になった時、臓器提供を希望しますか」という質問を行い、自分自身の問題として、考えをしっかりとらせるようにした。その上で、多角的で深い思考をさせるために、「希望する」「希望しない」のそれぞれの立場に相反する資料を提示し、自分の視点からだけの判断ではなく、他の人の視点からも判断をさせ、葛藤により思考を揺さぶる授業を行った。



【資料4 小テストでの確認】

(ア) 理解・定着確認の工夫

生徒は、前時に「自己決定権」について学習をしている。そこで、授業のはじめに前時の授業の**小テストを行い**、内容の理解・定着を確認し、「自己決定権」について簡単に内容を振り返る活動を行った。小テストの結果は、毎回、各自が持っている「小テストチェック表」に記入させている。チェック表は、点数と間違った語句を記入する欄があり、宅習や定期テストに活用するように指示をしている。さらに授業の終末では、本時学習の理解・定着確認として自己評価も含めて授業の**まとめを「記述式」で書かせ**、「自己決定権」についての思考の深まりを確認するようにした。

(イ) 個に応じた指導の工夫

導入段階で、臓器移植法の改正や10歳代前半の少年からの臓器移植が行われたことに関するニュースを**ビデオ映像で提示した**。すべての生徒が資料を理解でき、臓器移植について考えてみようという意欲づけにつながった。学習形態の工夫では、一人一人が活動して意見を言う機会を保障するために、まず、**個人で考える時間を確保した**。その際、**机間指導でのチェックと声かけを行い**、生徒個人の考えを確立するための支援を行った。さらに、その個人の考えを表明する場面として、黒板に示された「希望する」「希望しない」のスペースに自分の**ネームプレートを貼る作業を行った**。このことにより、他の人との意見の比較ができ、発言しやすい環境をつくることができた。その後、**それぞれの考えをもとに班構成を行い**、班で話し合う形態を取り入れた。同じ考えをもつ者同士の班構成を行ったことにより、より自分の意見が発表しやすくなったと考えられる。さらに、相反する資料を提示した場面においては、机間指導により葛藤する班の意見を聞きながら適宜支援を行った。

(ウ) 成果と課題

- 理解・定着確認のために、授業はじめに前時学習内容に関する小テストを行い、導入につながったことによって、レディネスが揃い、学習意欲が高まった。
- 授業最後の理解・定着確認を記述式で行うことによって、本時の学習内容をさらに自分のこととして深く考えることができ、社会的事象を考え続ける姿勢が身についた。
- 机間指導でのチェックと声かけや班学習の形態の工夫により、個に応じた指導が充実し、自分の意見をまとめ、表現する活動につなげることができた。
- 時間の関係で、考えたり、話し合ったりする時間が十分に確保できなかったため、個人でじっくり考えたり、生徒同士がじっくりお互いの思いを伝え合ったりする時間をさらに保障する必要がある。

イ 小学校算数での授業実践

○ 授業の概要【4年 垂直・平行と四角形】

本時の目標を「対角線の交わり方の性質を使って図形を判別することができ、その図形が『正方形』、『ひし形』、『長方形』、『平行四辺形』である理由を説明することができる。」とし、問題解決学習の過程に沿って段階的に学習を進めた。

確かめる段階においては、掲示資料を活用させることにより、前時までの学習を振り返らせた。つかむ段階においては、図をよく観察させて特徴に気付かせたり、既習事項である「ひし形」「長方形」「平行四辺形」という言葉を引き出したりすることで、問題の意図をつかみやすくした。調べる段階においては、自力解決の後、できた四角形の名前とその理由を説明し合う「ペア活動」を行うことで、根拠をもって説明させるようにした。その後、集団解決を行い、全体で学習内容を共有させた。まとめる段階においては、本時の学習でわかったこと、気付いたことを「振り返りカード」に書かせ、さらに、学びの振り返りとして「自己評価や相互評価」を行った。

(ア) 理解・定着確認の工夫

掲示資料を工夫して作成・掲示することで、前時の学習内容である「ひし形」「長方形」「正方形」と対角線との関係を振り返らせることができた。また、授業はじめの「問題図」を提示する際には、図を段階的に示すことにより、問題の意味をわかりやすくした。二重円から順次条件を増やす過程で、「対角線」「垂直」といった既習事項である用語を児童から引き出すことができた。これらの活動を行うことで重要事項の確認を行うことができた。

授業の終末においては、本時の学習でわかったことや気付いたことを「**振り返りカード**」に書かせ、本時学習の振り返りを行った。その際、児童の言葉をもとにしてまとめ、本時学習の定着を図った。また、自分の「学び」はどうだったのか、友達の「学び」はどうだったのか、という観点で「**自己評価・相互評価**」も行った。

(イ) 個に応じた指導の工夫

自力解決では、4つの点を結んで四角形をつくり、できた四角形の名前とその理由を考えさせる活動を行った。**机間指導**を行う際に、四角形を見つけることができた児童には、その四角形に丸をつけ称賛し、戸惑っている児童については、ヒントとなる言葉かけを行った。また、自力解決が早く終わった児童については、自分の考えを他の友達と交流させ、何もしない時間を作らない工夫をした。さらに、互いに説明し考えを補い合ったり、相手の説明から新たに学び合ったりさせるために「**ペア学習**」を行った。



【資料5 机間指導でのチェック】

(ウ) 成果と課題

- 授業はじめの理解・定着確認では、これまでの学習の積み重ねを掲示したことで、既習事項を日常的に振り返ることができ、活用するという視点からも効果的であった。
- 授業終末の理解・定着確認では、「振り返りカード」を活用して、わかったことや自己評価、友達よさを書かせることにより、学習内容の理解・定着や表現力の育成に効果があった。
- 個に応じた指導の工夫においては、「机間指導」でのチェックと声かけが有効であった。一人一人の学習状況を把握することができ、個に応じた声かけを行うことができた。
- ペア学習では、一人一人が説明する時間を保障することで、自分の意見をどうにかして相手に伝えようとする姿が多く見られ、言語活動の充実を図ることができた。
- ペア学習では、ペアの様子や学習状況を教師がどのように把握し、指導、評価していくのが今後の課題となる。

ウ 小学校国語での授業実践

○ 授業の概要【6年 豊かな日本語の使い手になろう】

小学6年「豊かな日本語の使い手になろう」で検証授業を行う計画を立てている。(3学期)これまで学習や生活の中で習得してきた母語である日本語について改めて振り返り、小学校での言葉の学習の総まとめとしたい。また、複数の文章を併せ読むことによって、筆者が意見や具体例をどのように示し、その両者がどのような関係にあるのかを読み取らせるようにしたい。

(ア) 理解・定着確認の工夫

まず、「確かめる段階」では、本時までの学習で使用した**掲示物や学習ノートなどを使って**前時学習内容を振り返り、レディネスを揃えるとともに、本時学習の意欲づけを図りたい。この時に、本時学習に深くつながる既習事項をしっかり押さえて、「活用する」ことができるようにしたい。学習問題は、意見と具体例の関連に注意して読み取る内容とし、日本語の特徴やよさ、おもしろさなどについて感じたことを話し合うようにしたい。授業終末では、本時学習でわかったことを中心に、**記述による学習のまとめと自己評価を行わせ**、本時学習を補完し、深める内容になるようにしたい。

(イ) 個に応じた指導の工夫

国語における個に応じた指導とは、一人一人のよさを生かしながら思考の深まりを助けることである。そこで今回は、効果的な**机間指導を行って**、お互いの意見を磨き合い、よりの確な読みへとつながる**ペア学習を工夫したい**。机間指導では、発表や観察、ワークシートの記述等から、支援が必要な児童にチェックと声かけを基本としながら指導していきたい。ペア学習では編成を工夫して、意見交流が活発に行え、考えを深めることができるようにしたい。

(3) 研究の振り返り

小テストを毎時間実施することがなかなか難しい場合、授業はじめでは、既習教材や資料をもう一度活用することで、同様の効果をあげることができることを明らかにすることができた。また、授業終末では、「今日の授業でわかったことを書く」といった記述での振り返りが、言語活動の充実という視点からも大切であることがわかった。

理解・定着確認後の個に応じた指導では、「机間指導」での一人一人へのチェックと声かけを基本として、ペア学習や班学習での「学び合い」が効果的であることを明らかにすることができた。すべての子どもに発言する機会をつくり、お互いに学び合うことで思考を深めたり、基礎・基本を習得したりすることができることがわかった。

2 ドリル学習の効果的な指導方法の研究(プラン2)

(1) 基本的な考え方

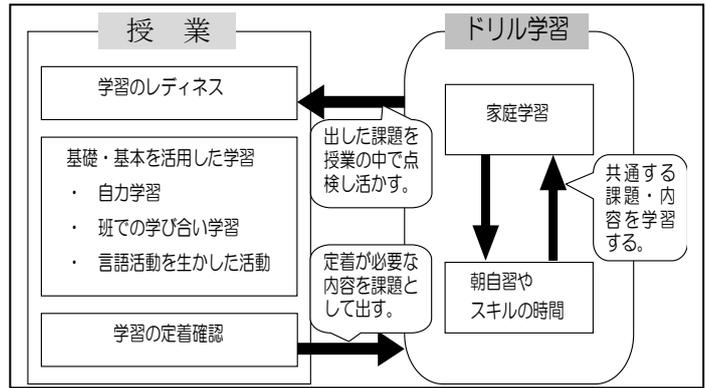
ア ドリル学習について

プラン2でのドリル学習は、授業以外でのドリル学習と位置づけ、学校での「スキルの時間」や家庭学習で行われるドリル学習とした。

イ ドリル学習と「活用する力」

ドリル学習で繰り返し学習して習得した知識・技能は、活用する学習の中で使われることにより、「生きて働く」知識・技能として身につけることができる。

そのためには、理解・定着の確認と個に応じた指導を生かした授業の中で習得した知識・技能を、家庭や学校でのドリル学習で一層確かなものにする、さらに授業の中で活用する、といった「授業とドリル学習のサイクル」が大切ではないかと考え、研究・実践に取り組んだ。



【資料6 授業とつながるドリル学習イメージ図】

(2) 研究の内容

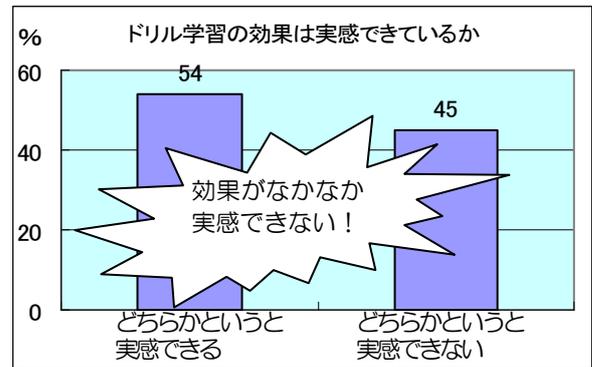
ア 実態調査の実施

(ア) ドリル学習の効果の実感

実態調査で、家庭や学校においてドリル学習の指導に取り組んでいるが、なかなか効果が実感できていないことが明らかになった。(資料7参照)

(イ) ドリル学習の課題

効果が実感できない大きな原因は、日常の授業やテストの結果にドリル学習の成果が反映できていないことが原因ではないかと考え、授業とつながるドリル学習の研究に取り組んだ。



【資料7 ドリル学習の効果が実感できているか調査】

イ 家庭学習ガイド・プランの作成

(ア) かどがわ家庭学習ガイド(児童生徒用)

a かどがわ家庭学習

小学3・4年生から中学3年生まで、一貫して家庭学習に取り組む手立てとして、「かどがわ家庭学習」と名付けた学習の進め方ガイドを作成した。

この家庭学習は、授業の繰り返し学習を行う、ドリル学習を中心とする、の2つを基本として、

- 勉強のめあて ○ 勉強の順番
 - 勉強の計画
 - 「かどがわ学びノート」の使い方
- というように、家庭学習のはじめから

“かどがわ家庭学習の進め方”

◇ 勉強のめあて

5・6年生のめあて
○ 宿題をした後、進んで自分の勉強ができるようになりましょう。

5・6年生の時間のめあて
1日に、50分～60分以上勉強しましょう。

◇ 勉強の順番

- 1 学校からの連絡やプリントなどを、うちのの人に渡しましょう。
- 2 まず、宿題をしましょう。(できたら、うちのの人に見てもらいます。)
- 3 自分の考えた宅習をしましょう。(「かどがわ学びノート」を見て)
 - 国語で学習しているところを、声を出して読みます。(読み声2～3回)
 - 国語の勉強をします。(教科書やドリル帳を使って、丸つけとやり直しもします。)
 - 算数の勉強をします。(教科書やドリル帳を使って、丸つけとやり直しもします。)
 - 社会や理科などの大切な語句や言葉を練習します。(教科書や資料を見ながらします。)

※ 読み声は、毎日します。学習は、いくつか組み合わせてします。

4 読書をしだり、日記を書いたりしましょう。

5 学校に行く準備をしましょう。(学習予定や連絡帳を見て)

◇ 勉強の計画

- 曜日ごとに学習をはじめる時刻を決めましょう。
- ※ できるだけ夕食前にするようにしましょう。
- ※ 見たいテレビや習い事のことも考えて決めましょう。

曜日	日	月	火	水	木	金	土
始める時刻	時 分	時 分	時 分	時 分	時 分	時 分	時 分

【資料8 かどがわ家庭学習ガイド(小学生用)】

終わりまでの手順ややり方を示すようにした。

b かどがわ学びノート

「かどがわ家庭学習」とつながるノートの使い方として、「かどがわ学びノート」を作成した。これまで、ノートの使い方は児童生徒に任せることが多かったが、何を、どのように学習すればよいかを一目でわかるようにし、内容は、

- ドリル帳コーナー
 - 授業復習コーナー
 - 繰り返しコーナー
 - がんばりコーナー
- (小学生版)

として、家庭学習が確実にできるようにした。

(イ) かどがわ家庭学習プラン(教師指導用)

「かどがわ家庭学習」を確実に推進するために教師用の指導資料を作成した。ここでは、ドリル学習の効果や授業とつながるドリル学習の進め方など6つのポイント示して、ドリル学習の効果があがるように工夫した。

- ドリル学習の意義と効果
- 授業とつながるドリル学習に取り組もう
- 授業の終末で理解・定着させたい内容を確認する
- 家庭学習の内容と方法を具体的に指導する
- 学校や家庭でのドリル学習を評価する
- 家庭ドリル学習で家庭の協力を求め連携する

(3) 研究の振り返り

学習の方法がわからないために家庭で勉強をしない、勉強しても効果が見られない、などの問題が指摘されていたが、授業と家庭でのドリル学習をつなぐことが必要であることを明確にして、そのために活用できる「児童生徒用ガイド」「教師用指導プラン」を作成することができた。また、これをもとに、各学校で家庭学習に関する研修や指導に取り組むことができた。

3 活用する力の育成についての研究

(1) 基本的な考え方

各種学力調査の結果、知識・理解を中心とする基礎・基本とともに、活用することに関する学力が大きく落ち込んでいることが明確になった。そこで、これまで取り組んできた、基礎・基本の定着とともに、活用する力を育てる研究・実践に取り組むことで、基礎・基本の定着がより一層確実となり、生きて働く知識・技能が身につくと考えて、研究に取り組むことにした。

1 ページ目

※ 日付を書きましょう。

【今日の授業復習スペース】
(今日の授業の復習をしましょう。)

【例】(社会)
国民の代表～議員～国会～民主政治が行われる
↓
～国会制民主主義
国会～法律をつくる～立法

教科書やノート、授業で使う問題集やプリントを活用して、今日授業で学んだことをしっかり復習しよう。特に、不得意な分野の復習をしっかりとしよう。

※ 重要語句やポイントを色鉛筆で書くなど工夫しよう。
※ 写すだけでなく、「覚える」ことを大切にしよう。

【宿題(ドリル学習)スペース】
(問題集などを使って授業と同じところを勉強しましょう。)

【例】(数学)

<p>(1) $a+2b+3(a-b)$ =$a+2b+3a-3b$ =$4a-b$</p>	<p>(2) $3(2a+b)+4(a-3b)$ =$6a+3b+4a-12b$ =$10a-9b$</p>
---	---

宿題の問題集などをしよう。教科書の問題集や授業の時にもらったプリントなどをしよう。

※ 数学の計算式は、しっかり書こう。
※ 基本的に問題文などは書かず、式や計算、答えのみを記入し、多くのドリル問題に挑戦しよう。

○ 勉強する広さは、問題の数や書く量によって、ちょうどよい広さをとるようにしよう。
○ ノート1～2ページは勉強しよう。

【資料9 かどがわ学びノート(中学生用)】

1 授業を核としてドリル学習に取り組もう。

ドリル学習の効果が実感できない原因に、授業とのつながりが見えにくいということがあります。学習したことが、学習に生かされると、できるようになった、わかるようになったと実感できます。授業を核とする、ドリル学習を実践しましょう。

2 授業の終末で理解・定着させたい内容を確認する。

アイデア

本時授業終末に理解・定着の確認を確実にし、家庭学習の課題とします。課題は、次時のレディネスで確認・説明などを行い、授業に生かします。また、課題は、朝学習やスキルの時間でも学習します。授業→家庭学習→スキルの時間といった学習サイクル(かどがわ学びのサイクル)で、自己学習力を育てましょう。

【資料10 かどがわ家庭学習プラン(教師指導用)】

(2) 活用する力について

「活用する力」を育てるために、

- 観察する力 ○整理・選択する力
- 考える力 ○振り返る力
- 解釈する力 ○表現する力

などの力が大切であると考え。これらは知識や技能を活用する学習活動の中で生かされるものであり、言語活動の充実と密接に関連している。

(3) 授業での実践

ア 中学校社会での授業

臓器移植という、日常生活に深く関連する問題を取り上げ、様々な資料を見た

り、読んだりした上で、自分の知識や経験に照らし合わせて、自分なりの考えをまとめ表現する学習活動を行った。また、班活動における班編制を工夫したり、葛藤を起こさせる資料を提示したりすることによって、より効果的に将来自分の問題として起こりうる社会的事象を議論することができ、思考力・判断力を深めることができた。実際に、多くの生徒が授業後、各家庭で「ドナーカード」について議論を行っており、「自己決定権」について自分の問題として捉え続ける様子が見られた。

イ 小学校算数での授業

問題提示の際には、段階的に図を示し、図をよく観察させることで特徴に気づかせ、既習事項を振り返らせることで、活用する力を高める『解釈する力』の育成をねらった。

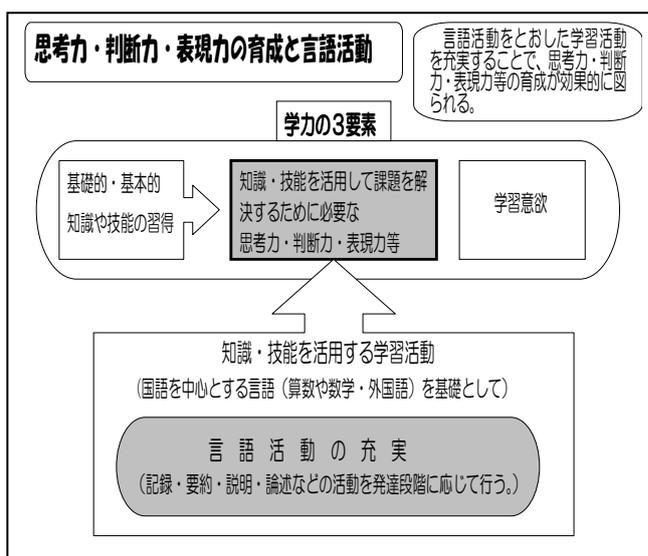
自力解決での「4つの点を結んで、四角形をつくり、できた四角形の名前とその理由を考える」活動では、対角線の交わり方などから四角形の名前を特定し、その理由を、根拠を明らかにして説明することができるといった、活用する力を高める『表現する力』の育成をねらった。

ウ 小学校国語での授業

授業では、記述された内容やそこから読み取ったことを生かして自分なりにまとめ、表現する活動を取り入れるようにしたい。読み取りでは、まず、大事な言葉や自分が考えたことを付箋紙に書き込み、それを比較、選択する活動をおし、筆者の考えや表現、組み立ての工夫をつかませるようにする。その後、これを活用して、日本語のよさについて、自分なりにまとめ、表現する活動へつなげていくようにしたい。

(4) 研究の振り返り

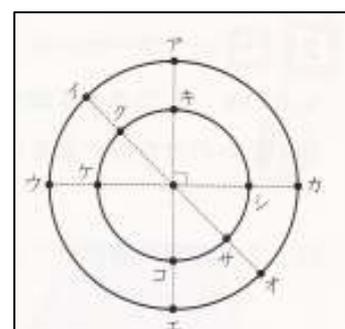
「学力向上2プラン」では、基礎・基本の「習得」が中心であったが、習得した知識や技能を「活用する」学習を充実することが、基礎・基本の一層の定着とともに、思考力・判断力・表現力の育成にもつながると考え、「活用する力」の基礎的な研究と「活用」を取り入れた研究授業に取り組むことができた。今後は、基礎・基本の定着とともに「活用する」学習の研究を一層深め、実践化に取り組んでいきたい。



【資料11 思考力・判断力・表現力の育成と言語活動】



【資料12 班学習での学び合い】



【資料13 算数的活動につながる問題】

Ⅷ 成果と課題

1 研究成果

(1) 理解・定着確認と個に応じた指導の研究（プラン1）

- 社会・算数・国語の研究授業をとおして研究・実践を深め、教職員に啓発することができた。
- 簡潔で効果的な理解・定着確認の方法として、掲示物や学習ノートの活用などを工夫することができた。
- 個に応じた指導として、机間指導やペア学習・班学習などの「学び合い」を工夫することができた。

(2) ドリル学習の効果的な指導方法の研究（プラン2）

- 授業と家庭や学校でのドリル学習のつながりが大切であることを、啓発することができた。
- 「かどがわ家庭学習」「かどがわ学びノート」を作成、配付して、小学校から中学校までつながりのある家庭学習の充実に取り組むことができた。

(3) 活用する力を育てる研究

- 「活用する力を育成する」ことについての基礎的な研究を行うことができた。
- 「活用する力の育成」の視点から、社会・算数・国語の研究授業を実施することができた。

2 今後の課題

(1) 理解・定着確認と個に応じた指導の研究（プラン1）

- 理解・定着の確認と個に応じた指導についての理解を深め、実践を広げていく必要がある。

(2) ドリル学習の効果的な指導方法の研究（プラン2）

- 学校や家庭に対して、「かどがわ家庭学習」「かどがわ学びノート」の普及に努める必要がある。

(3) 活用する力を育てる研究

- 「活用する力」とともに、基礎・基本の定着を図る指導法の研究を深める必要がある。
- 授業をとおして、「活用する力の育成」についての研究を深める必要がある。

○ 参考文献

「家庭学習の手引き」

「太田南小型家庭学習の手引き」

平成23年度「活用する力」を高める授業力強化事業資料

教え方ガイドブック

授業改革と学力評価

あきたのそちから

門川町教育研究所

大仙市立太田南小学校

宮崎県教育庁学校政策課

志水 廣 明治図書

北尾倫彦 図書文化

秋田県総合教育センター

○ 研究同人

職名	氏名	所属	職名	氏名	所属
所長	新原とも子	教育長	研究員	川崎利康	草川小学校
事務局	和泉昭子	教育総務課	研究員	仙田勝一朗	西門川小学校
研究指導員	山本逸馬	教育総務課	研究員	三樹史朋	五十鈴小学校
研究主任	酒匂慎一郎	門川中学校	研究員	須藤かおり	西門川中学校
研究員	岩崎淳	門川小学校			